新井宿自治会連合会新会長就任のご挨拶

鈴木 英明会長
（山王三・四丁目自治会）

安全安心で快適な暮らしをおくる為には、自助共助が重要といわれますが、新井宿地区では単町会の枠を超えて、8つの町会と自治会が連携協力をして防火防災をはじめ交通安全やお祭り等を行っています。大田区18地区の中で最も連携の進んだ町として、これからも皆さんと気持ちを合わせて広域な視点でより良い町づくりを進める努力をして参ります。どうぞよろしくお願いします。

受賞おめでとうございます

平成 30 年度 東京都町会連合会表彰

渡部　作次

新井宿自治会連合会　感謝状贈呈

《退任会長》　南雲　博康
《退任副会長》　田中　嶺久　田中千恵子　立谷　芳朗
《永年在職者》　三沢清太郎　今野　裕子　渡邊　昌之
間宮　千恵　吉川　信一　小泉　和男　湯浅　達男
湯浅美代子　星　美幸　長岡　京子　平林　晴子
酒井　和夫
（敬称略）

渡部作次会長、連合会長退任のご挨拶

平成22年5月に連合会長に就任してから10年ほど経ちました。思い起こせば、平成12年に新井宿六丁目町会副会長を急きょ引き受け、右も左も分からない状態で翌年に町会長に就任しました。事務引継もとくになかったため、大田区全体の連合会の会議でも、出席メンバーや会議内容がよく分からず、最初の頃は苦労しました。あっという間でしたが、非常に実りある10年でした。新井宿は大変良くまとまっている地区のため、これからは鈴木会長の下、さらに自治会・町会一丸となって、地域に尽力したいと思います。

薬師堂会館（山王三・四丁目自治会会館）の完成

（山王三・四丁目自治会）

地域に長く愛されてきた新井宿薬師堂は2018年6月新しくマンション内一角に薬師堂会館として生まれ変わりました。100人収容可能な集会室は様々な用途に活用可能です。引き続き地域の皆様に愛される施設としてご愛顧いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、桃雲寺再興記念碑と富士講碑は近隣への移設を計画しております。

新井宿特別出張所新所長着任のご挨拶

4月1日付けで新井宿特別出張所長に就任しました若林弘と申します。新井宿地区は「医療・福祉・文化」それぞれの分野が融合した魅力あふれる地域だと実感しています。各自治会・町会の皆様の防災意識はとても高く、また、ご家族が一緒に楽しめる様々な行事を開催して地域の輪を広げていらっしゃいます。

地域の皆様の活動拠点として信頼され、親しまれる特別出張所づくりに励んでまいります。よろしくお願いいたします。

8月4日　山王三　真夏の雪まつり

（山王三丁目町会）

驚くなかれ、8月なのに雪が降ります。えーそんなことは・・・しかしあるのです。山王三番街商店街と山王三丁目町会は協力して、雪合戦ができるほどの雪を降らせます。それも MEGAドン・キホーテ大森山王店の屋上、8月4日（土）時間は10時から16時。模擬店も出ます。さて、この奇跡を皆さんは見ることが出来るか？会場のスペースには限界があり、もしかすると入場制限も・・・

編集後記

新井宿が住所表示も新井宿であった頃、まだ町のあちらこちらに戦争の傷跡が残っていたのを記憶しています。僕ら戦争を知らない子供たちは、そんな空地や原っぱで日が暮れるまで遊んでいましたから。その昭和が遠くなり、平成さえも残すところ僅かになりました。今号の二面三面では「未来へ語り継ぐ戦争体験」として、お二人の貴重なお話を掲載しています。戦の無かった江戸の260年間というのは、人類の歴史において最長記録だとか。是非ともこの記録を遥かに超える時代が続いて欲しいと願うばかりです。世界の平和は我が家から、そしてわがまち新井宿からということでしょうか。

今号より新井宿七丁目町会の編集委員は、落合松枝さんから福田スミさんにバトンタッチされました。長らくお疲れ様でした。そして宜しくお願いします。

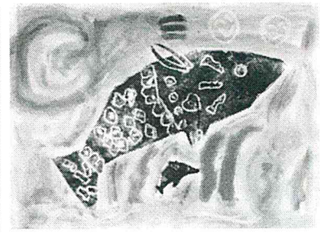
（関口編集委員）

発　行　地域力推進新井宿地区委員会
編　集　「わがまち新井宿」編集委員会

中央四丁目町会	編集委員長	若生一順
山王三丁目東自治会	副編集委員長	荒木秀樹
山王三丁目町会	副編集委員長	吉川信一
山王三・四丁目自治会	編集委員	三沢清太郎
中央一丁目町会	編集委員	形見俊郎
中央一丁目町会	編集委員	関口直人
新井宿五丁目町会	編集委員	加藤弘子
新井宿六丁目町会	編集委員	雉本まり子
新井宿六丁目町会	編集委員	松原美枝子
新井宿七丁目町会	編集委員	福田スミ

……共同編集……
監　修　新井宿自治会連合会
事務局　大田区新井宿特別出張所
大田区中央1−21−6　☎3776−5391
http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html

わがまち Araijuku 新井宿



「たびする魚」（版画）
入四小3年
木村愛菜（きむらあいな）さんの作品

医療・福祉・文化のまち新井宿地区の 魅力発信事業 が始まります！

© 大田区

© 大田区

新井宿地区の魅力を再発見し、広く発信していくために以下の事業を行います。

魅力発掘！ 新井宿まちあるき講座 の開催

新井宿地区の魅力を再発見するために、地域の町会や自治会の方々と講座やまちあるきを実施！

7月8日（日）に第1回まちあるき講座「新井宿 山王コース」を開催しました！

新井宿 山王コース
薬師堂→アキナイ山王亭→闇坂→山王公園→弁天池→花清水公園→梅の木通り→根ヶ原神社→善慶寺→熊野神社→山王会館→薬師堂

魅力体感！ ワークショップ の実施

義民六人衆霊廟

新井宿地区の魅力を体感するために、ワークショップを開催！

*さぽーとぴあ de 遊ぼう！
*アンのレシピでお菓子をつくろう！
*新井宿の歴史体感講座

※詳細は追って区設掲示板などに掲載いたします。

魅力発信！ 新井宿まちあるきマップ の作成

新井宿地区の魅力を様々な方に知っていただくために、新井宿の魅力あふれるまちあるきマップを作成！
平成31年3月発行予定。

次のようなスポットを紹介していく予定です！

新井宿 山王地区
闇坂（くらやみ）

新井宿 中央地区
大田区立龍子記念館

© 大田区

予告

まちあるき
「新井宿 中央コース」を開催！
日程：9月23日（日）
※詳細は区報（7/11号）・HPをご覧下さい

© 大田区

お知らせ

平成30年度
新井宿地区秋の写真展開催！
期間：10月2日㈫〜10月11日㈭
時間：10時〜17時
会場：新井宿特別出張所3階
主催：新井宿自治会連合会

未来へ語り継ぐ戦争体験

二人の児童疎開体験者には今年になってお会いする機会があり、編集委員が直接お話を伺いました。

文責：編集委員　吉川 信一（敬称略）

永田　壽子（昭和８年生まれ）
阿部　君代（昭和８年生まれ）

入学まで

永田 壽子

私が生まれたところは現在の大田区大森地域庁舎のあたりです。当時は海岸側が繁華な地域で京浜急行側に料亭が立ち並んでいて映画館も三原通りにありました。

父は歯科医院を開業していましたが、戦争が激しくなると建物疎開にあって現在の場所に移りました。学校は入新井第二小学校です。

阿部 君代

馬込との境界近くに住んでいました。川端龍子宅のそばにうちがあり、近くには佐伯栄養学校もあってよく遊びに行きました。長閑（のどか）なもので、臼田坂に自動車の姿はあまりありませんでした。坂を下ったあたりから商店が続き買い物を頼まれてもそこらで済みました。考えてみると今より便利だったかもしれません。

出会い

二人は入学のときから、同じクラスでしたが、始めから仲良しということではなく疎開をきっかけに親密になり、７０年以上たった今も友人でいます。

入新井第二国民学校・校庭
集団学童疎開出発式

疎開

昭和19年秋、5年生の2学期（8月30日）、私たちは焼津の普門寺というところに疎開しました。戦争が激しくなってきたためです。すでに縁故疎開などで少なくなっていましたが、病弱な子は残ったようです。

疎開の準備・君代は行李（こうり）、壽子は信玄袋に布団・洗面具・コップ・箸などを詰めて送りました。疎開当日は学校に集合して先頭には級長が立ち、列を組んで大森駅まで行進して出発しました。着いたのは静岡県焼津の普門寺というお寺です。ここは女子の宿舎です。

海に出て砂浜に行くと松林が広がり山側には富士山がくっきりと見えました。そこには戦争の気配はありませんでした。学校は近くの焼津東小学校の教室を借りて授業を受けました。地元の子どもたちとは、ほとんどかかわることはありませんでした。

食べものは、魚・野菜ともに十分ありました。賄の人が料亭の人だったようで、東京にいた時よりも豪勢な手の込んだものが出ました。シソ巻きや鰹ご飯のご馳走が出たこともありました。

寮母さんは学校から一緒でした。子どもたちのおばあちゃんやお母さんお姉さんでした。家族がついてきている子には、ちょっと嫉妬しました。まだ11歳ぐらいです。当たり前かもしれません。

週末に演芸会を開きました。歌や踊り娯楽のない生活に楽しい思い出です。風呂は風呂屋に行きました。週に１回ぐらいだったと思います。営業時間の前の早い時間に入れてもらいました。暑い時期ではないので不都合は感じませんでした。なんといっても嬉しかったのは家族の面会です。君代の母は病弱であまり来られなかったのですが、壽子のお父さんは校医だからかもしれませんがよく面会に来てくれました。わらべ歌を歌って子どもたちを喜ばせてくれました。今も歌うことが出来ます。他の楽しみはオルガンを弾くことです。学校からわざわざオルガンを運んできたのです。女の子ですね、みな弾きたくて、弾きたくて食事が終わると先を争って練習しました。焼津の漁師さんが南方開発船団という形で慰問に来てくれたことを覚えています。地元の人たちが私たちに心をかけてくれていたことが分かります。そんな中、空襲警報が５～６回あり防空壕に逃げ込んだことがありました。

今井先生を先頭に大森駅に向かって
行進する子どもたち

再疎開

昭和20年の6月、静岡も危ないので岩手に再疎開することになり慌ただしく準備をして、列車で出発しました。途中品川駅で、ほんの短い時間家族に会うことが出来、すがりついて泣いている子もいました。今の子どもだったら耐えられないでしょう。あの当時の子どもは兄弟が多く親に甘えられる時間も場所も限られていたので再疎開に対してもじっと我慢して耐えていたのかもしれません。

長い時間をかけて岩手県前沢古城というところにつきました。宿舎のお寺はまだ準備が整わず、近くの農家に２人ぐらいずつ分宿することになりました。そこで運命が別れます。壽子は５人家族の農家で同い年の子どもがいて何かと気をつかってくださいました。「食べなさい、食べなさい」とご飯をすすめられて、食べ過ぎてお腹を壊すほどでした。君代は十分に食事も与えられなくて苦労しました。時を経ずして別の家に移ったそうです。疎開の事はよく覚えている君代ですが「この頃のことは覚えていない」と言います。きっと思い出したくないことがあったのかもしれません。勉強はお寺で男女一緒でした。

君代の家族は昭和20年4月15日の空襲で池上本門寺に逃げたそうです。本門寺も本堂が焼けました。家は運よく焼けなかったそうです。

前沢のこの辺りにも空襲があったようです。国道に面したところに艦載機から機銃掃射があったと聞きます。私たちのところには、そのようなことはありませんでした。ちなみに岩手前沢には防空壕はありませんでした。

子どもも大人も辛く悲壮感漂う思い出は、終戦の少し前40歳を過ぎている氏家先生に召集令状が来たことです。壮行会をささやかに開いて送り出すときは皆心では泣いていたと思います。運よく先生とは学校で再会できました。あまりにも終戦直前なので内地にいたそうです。

帰宅まで

岩手に来て３ヶ月余り、とうとう終戦の日が来ました。皆悲しい思いになりましたが、それよりも「いつ家に帰ることが出来るのだろう」という思いが強くありました。結局学校に帰ったのは２ヶ月後の10月になっていました。

大森駅から列を組んで学校まで行進して帰りました。縁故疎開や家族が家に連れ帰ったりして帰校時は出発の半分ぐらいになっていました。わたくしたちの家族は全員無事で戦後を迎えることが出来ました。

50年後の平成6年、9人で疎開地焼津を訪れました。ほとんどの街並みが大きく変わり時間の流れを感じましたが、焼津神社はほとんど変わりなくありました。

面会に来た保護者と子どもたち
焼津　普門寺